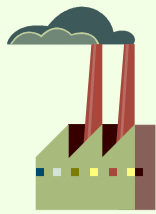


Let's エコドライブ ～運転の際の注意点～



昨今、温暖化対策の話題に事欠きません。その中で最も重要視されている二酸化炭素排出問題。

その中の1つに挙げられるのが自動車の排ガスです。ハイブリッド車の開発など技術面の向上もありますが、個人で出来る対策に『エコドライブ』があります。

近頃、よく耳にする言葉なので一度は聞いた事があるかと思われませんが、実際はどれほどの効果が期待できるかご存知でしょうか？

☆緩やかな発進「ふんわりアクセルスタート」
通常の発進よりも、やや緩やかな発進を心掛けましょう。5秒間で時速20km（回転計がある場合は、2000rpm以下）を目安に発進する事により約11%の燃費改善に繋がります。

☆加減速の少ない運転

車間距離に余裕を持ち、一定の速度で走る事を心掛けましょう。

加減速の多い走行をする事により、市街地で約2%、郊外で約6%の燃費の悪化を招きます。また、同じ速度で走行する場合、高めのギアで走行する事により燃費が良くなります。

☆エンジブレーキの活用

停止する時には、早めにアクセルオフする（アクセルから足を離す）ように心掛けましょう。



エンジブレーキを積極的に活用する事により、約2%の燃費改善に繋がります。また、坂道を下る時にもエンジブレーキを活用しましょう。

☆アイドリングストップ

駐停車時にはアイドリングを止めるように心掛けましょう。エアコンをOFF、ギアをニュートラルレンジにしている状態で10分間アイドリングをした場合、約130ccの燃料を消費します。

待ち合わせや荷下ろし等の為に駐停車をする時には、必ずアイドリングストップを心掛けましょう。



☆駐停車場所の選定

交通の妨げになる場所での路上駐車は渋滞の要因になります。



渋滞により平均時速が40kmから20kmになると、約31%の燃費の悪化を招きます。

以上、車の走行時には上記に気を付けて運転する事により、CO2排出量の削減と共に燃費の改善も出来ますので、是非とも実践してみてくださいは如何でしょうか。

地球の環境衛生を創造する **FCC**
株式会社 **FCC** fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCC News

2008年12月号

NO. 0058



目次

本紙

年中飛び交う害虫『ユスリカ』にご注意！

ゴキブリ小話⑥

Let's エコドライブ

別紙

季節のムシ暦

環境コラム

環境コラム ～水質汚染を防止しよう～



私達が何気なく使用している「水」。日本人は普段から生活する上で「水」を無駄に使いすぎる傾向があります。

日本の飲用水は、世界で最もきれいであると言われています。しかし世界には、きれいで安全な水を飲めない国も数多くあります。水は資源です。限りある資源なのです。いつ無くなることも限りません。

地球上の水の内、約97%は海水であり、塩分を含まない淡水は全体の約3%しか存在しないのです。しかも、その約70%は南極や北極の氷なので、実際私達が利用できる水は地球上の水のうち、0.8%しかないのです。

しかしこれらの資源は近年水質汚染が進んでいます。その事に危機感を覚えている人はどれだけのことでしょう。

水質汚染の原因について真っ先に思い浮かぶのは、四大公害病 水俣病、第二水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくを引き起こした工業排水ではないでしょうか。しかし近年では工業排水に関わる様々な規定がある為、汚染状況も以前に比べると格段に良くなっています。

さて、それでは 一番の原因は何でしょう？

皆様が普段から流している生活廃水こそ 一番の原因だったのです。実に水質汚染の原因の60%程を占めています。もしかしたら、今度は皆様が流した排水によって公害病が引き起こされるかもしれないのです。

水質汚染の影響を受けるのは、人間だけではなく、他の動植物も同じく被害を受けます。水質汚染された川や湖、海で影響を受けながら育った水産物を食している可能性もあると考えると、恐ろしい気がします。

それでは水質汚染防止のために、私達は何が出来るのでしょうか？

一言で言えば、汚染物質を流さないことです。生活廃水には、「トイレ」「台所」「風呂」「洗濯」等がありますが、この中でも最も汚染の原因となるのが「台所」からの生活廃水です。

国の調査によりますと、次の食品が特に汚染の数値が高いようです。

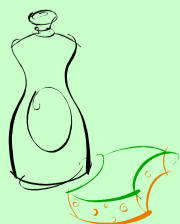
でんぷら油を始めとして、飲み物では「コーンスープ」「ビール」「生ジュース」「コーヒー」、またお米のとぎ汁や「おでんの汁」等が挙げられます。

てんぷら油なら固めて捨てる、飲み物ならしっかり飲みきる等、直接水に流さないようにしましょう。

その他、食器洗いや洗濯などに使用される「合成洗剤」も水中のバクテリア等の微生物への毒性が高く、生態系へ悪影響を及ぼす事も指摘されています。

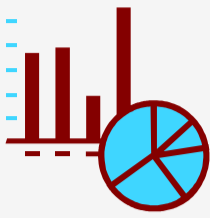
また、冒頭でも述べさせて頂きましたように、水を無駄に使わずにはいられないでしょうか？ ちょっとした節水の心がけが、意外に大きな効果を生み出します。

まだまだ他にも出来る事は多々存在します。今一度、水を大切にするライフスタイルを考えてみませんか？



～年中飛び交う害虫『ユスリカ』にご注意！～

ユスリカは、日本国内だけで1,000種類以上の生息が確認されているグループです。外見は蚊（力）に似て、一番大きい種でも成虫で1 cm程の小型の虫です。



飛来進入昆虫、異物混入昆虫として問題を引き起こします。

その発生数の多さから、食品工場における昆虫モニタリング調査では常に上位に位置し、度々1位を獲得しています。

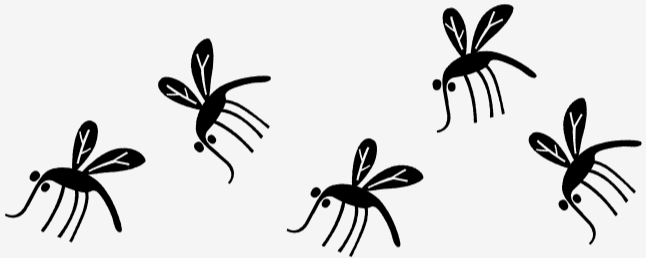
ユスリカは基本的には春～秋にかけて羽化しますが、中には冬に活動する種も存在する為、その発生は1年中見られます。

幼虫はほぼ例外なく水系で繁殖します。

流水を好む種があれば、停滞水を好む種もあり、清冽な水から汚濁した水まで、様々な水系からも繁殖の原因になりうる為、如何なる場所でも発生可能性があります。



基本的には湖沼や河川で発生し、羽化したものが屋内に侵入してくるのが一般的な外部飛来性昆虫ですが、グリストラップや側溝、浄化槽などから発生する場合があります。



☆その対策は…？

種により成虫の活動時間は様々ですが、屋内で問題となる種の殆どは夕刻～夜間に活発に飛翔し、照明に誘引されて進入してきます。

その為、日没前後から、ドアやシャッターの開放を出来るだけ控えましょう。



また、照明には昆虫の誘引の少ない紫外線をカットした光源を使用すると効果的です。



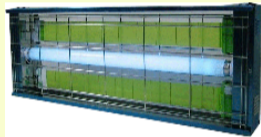
しかし、ユスリカはドア、シャッター、窓、換気口だけでなく、小型種では建物外周の僅かな隙間からも侵入してくるため、進入を完全に防ぐのは不可能と言えます。

侵入してしまったユスリカには、主な進入路の近くに特殊な光線で昆虫を誘引する捕虫機を設置する事をお勧め致します。

外から侵入してくる飛来昆虫の対策にはこちらの商品！

昆虫の好む365nmの光で誘引し、捕虫紙で捕えます。多くの小型昆虫は2.0m以上の高度を飛翔しない為、1.5～1.8mの高さに設置すると、より効果を発揮します。

品名：ムシボンMPS-2000



値段：¥24,675- (税込)

品名：ムシボン捕虫紙 (5個入り)



値段：¥1,575- (税込)

ゴキブリ小話⑥
～冬のゴキブリ～

季節も冬へと移り変わり、本格的に冷え込んできました。そろそろ、昆虫や動物達も冬眠し始めている頃でしょう。それは、ゴキブリも例外ではありません。

ゴキブリはもともと亜熱帯に生息する昆虫で、暑さに強い反面寒さには弱く、気温が15℃以下になると殆ど活動せず、寿命や繁殖率も低下します。

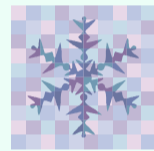
その為、従来枯葉の下や樹木の隙間などでじっと冬を越すはずの屋外で活動しているゴキブリ(クロゴキブリやワモンゴキブリ等)も暖を求めて建物内に浸入してきます。



建物に使用される断熱材の進歩や空調設備の充実化によって、冬でも温度変化の少なく暖かい人にとって過ごしやすい環境を作り出せるようになりました。

人にとって過ごしやすい環境というのは、ゴキブリを始めとする様々な害虫にとっても過ごしやすい環境なのです。その為、年中暖かい建物内に侵入したゴキブリは冬でも冬眠せずに活動します。

その建物内でも特に、厨房や台所など冷蔵庫を始めとする電化製品のモーター部は年中、夏さながらの気温を保っています。ゴキブリは、暖かい場所を求めて集まるため、一時的には見かける数が少なくなります。しかし、ここで繁殖したゴキブリが春以降にいっせいに姿を現してくる可能性があります。



冬期のしっかりとした駆除・防除こそ、ゴキブリ年間「ゼロ」実現の為に重要なのです。



季節のムシ暦 ⑬ 著者 医学博士・農学博士 林 晃史

冬の訪れを告げるカメムシ

紅葉が全国を走りぬけると、もう「冬」を迎える。こんな冬を告げる「虫」のひとつに、カメムシがいる。

虫は、人の都合によって、害虫や益虫などに区分されているが、害虫にも色々あって、「不快害虫」と呼ばれるものがある。カメムシは、そんな中のひとつである。

では、「不快害虫」とはどんな虫なのか？

これは、一般に、この虫が人を噛んだり、刺したりするなどの直接的な被害をもたらさないが、色や姿格好が人に嫌がられたり、特別な臭いなどを放ち、嫌悪感をもたらす「虫」の事を指す。

この悪臭騒動をおこす代表的なものが「カメムシ」である。地方によっては、ヘップリムシあるいはヘクサムシ、ヘコキムシなどと呼ばれている。このカメムシは、日本全国に分布し、その種類も600種に達すると云う。山野や雑草、植物に寄生して生活をする。

なかでも良く知られているのが、イネ(稲)の大害虫でイネクロカメムシである。このカメムシは、6月上旬から8月上旬にかけて発生し、吸汁加害する。

これに、刺激を与へると悪臭を放ち、分泌液を出す。この液に触れると皮膚が火ぶくれ状態になる人もい

る。この虫は、田園地帯で局地的に大発生をくり返すことがある。これが、越冬のために家屋内に侵入するので、厄介このうえもない。

生活の場で、問題になり易いのが、「クサギカメムシ」である。各種の灌木や果樹を加害するもので、4月頃から活動し、6月中旬に餌となる植物に産卵する。

9月頃に二代成虫が発生し、これが越冬のために家屋内に侵入する。このカメムシが、侵入すると悪臭が充満し、いたたまれない状態になる。

また、これが「味噌汁」に落ち込むと悪臭で食べる事が出来なくなる。飲食店舗などで、漬物やその他の食品に混入すると大変な騒ぎになる。

都市部では、マルカメムシが屋内に侵入したり、洗濯物に付着して悪臭に悩まされる事が少なくない。これは、公園や線路などのクズ、フジ、ハギなどのマメ科植物に発生したものが、越冬のために入ってくるものである。

このマルカメムシの厄介なのは、冬眠からさめた虫たちが、再び外に出るときにも悪臭を放つ事である。

この虫は、人に直接的な被害を及ぼす事はないので、防除法の研案が少ない。越冬のために侵入する個体を退治するには、群れ集まる場所に、残効性のある殺虫剤を散布する方法しかない。

世の中には面白い人も居て、この「悪臭」が好きだという人が居る。種類によっては、香水の原料になるものも居る。冬を告げるカメムシの悪臭は、ムシにとって

は、「防衛物質」であり、また謎を秘めた物質である。



【写真説明】
(写真) なんでもないこの「クサギカメムシ」刺激するとこの悪臭は耐えがたい！

